

第4回 松本市中心市街地再設計検討会議議事録（要約）

日時：令和7年2月14日（金）

会場：松本商工会館

○ 事務局

- ・本日は4回予定の最後の会議となる。
- ・これまでに3回の会議を重ねるとともに、昨年末には、山本座長代理と園田アドバイザーに出席をいただく形で市民フォーラムを開催し、これまでの検討経過と将来の見取り図（案）について、市民の皆さんに中間報告をしていただいた。
- ・本日は市民フォーラムなどで出された意見を踏まえて、市長への提言（案）を用意させていただいた。
- ・この資料を叩き台に最終的な提言の取りまとめに向けて、議論いただきたい。
- ・会議に先立ち、赤羽座長からご挨拶をいただく。

○ 座長

- ・7月29日に第1回目の検討会議を開催し、本日が最終の会議となる。
- ・委員の皆さまには、大変広く注目されている中、これまでも様々な経験をもとに活発な議論をいただいている。
- ・課題や検討事項は多いものの、これまでに各種団体や市民の方から多くのご意見も頂戴している。そのような中、中核エリアの将来の見取り図を考えてきた。
- ・本日は中核エリアの更なる発展が可能になるよう、また、市民の皆さまが楽しく過ごせるよう、今後のまちづくりを検討いただきたい。
- ・3月には市長への提言を行うことから、その点も踏まえて意見をいただきたい。

○ 事務局

- ・本日の議題は次第のとおり、市長への提言（案）についてです。
- ・それでは市長への提言（案）について、議論を進めていただきたい。

○ 司会

- ・最終的な市長への提言に向けて、今回いくつか議論を詰めなければいけないところがある。
- ・特に指針1から5のうち、指針5のどのような体制で進めていくかについては、本日、メインで議論する点だと考えている。
- ・それでは、事務局から資料の説明をお願いしたい。

○ 事務局

(資料1と本体資料を用いて市長への提言(案)を説明)

○ 司会

・細かい中身の議論に入る前に、説明いただいた資料について事実確認や用語の説明で確認したい点があれば、先にその点をクリアにしてから具体的な議論に入りたいと思うがいかがか。

・資料については、前回会議から何点か修正をしているとの説明があった。

・一つは駅という言葉。ここは前回会議で多くの時間を使って議論したところ。

・松本駅をお城口とアルプス口で分けるのではなく、駅そのものは一つであり、もっと言えば、バスターミナルまでも含めて一つのものとして考えるというところから、議論を始めた方がいいのではないかということ。

・今回の再設計に当たって、一つの中心に置くべきものが駅ということで、複数ページにわたって修正が入っていたと思う。

・中核エリアには大きく分けると、駅周辺とお城周辺の二つのエリアがあるが、いくつかの考え方がある中でも、前回会議までに議論が収斂してきたのが、この駅周辺という印象を持っている。

・この点で、資料のまとめ方や市長への提言で押さえておきたいポイントについて委員の皆様で意見があればと思うがいかがか。特にないですか。

・駅周辺については、前回会議までの議論を基に提言する方向性で、委員の皆さんもお考えということよろしいですか。

・本日議論を予定している、指針5の「公民学連携によるまちづくりの推進」だが、一つのプロジェクト例に、行政とJR、アルピコが一体となったプロジェクトが挙げられている。これは市民の意見ということで3回目で議論があったと思うがいかがか。

○ 委員

・駅を拠点の一つに中核エリアを再設計していくという考え方は、皆さんの思いもそうだなということなので、そういった方向感を提言していくのはよく分かる。

・ただ駅には現に機能があって、駅周辺に土地が余っていると言われると、現時点でも利用している状況なので、これを最終的にどう変えるのか、どのように土地を空けていくかということを考えることは必要だが、それに加えて、その途中をどうするかということをよく考えていかないと、実現はしていかない。

・どの主体がどのようなことをやろうとしているのかということがあると思う。

・既に動いているプロジェクトがあるということを見ると、整備については、そこを主体としてある程度考えていくことになる。

・一方で、まちづくりとなると、これは非常に広い概念なので、いわゆる再整備とマネジメント、エリアマネジメントやタウンマネジメント、これは別物として考えておいた方がいいと思う。

・最近の事例では、開発時点からエリアマネジメントを想定してまちづくりが進んでいる場所も出てきている。売って終わりということにはならないと思う。

・この仕組みを公民学連携といった場合、どこが動くのか、どこが費用を負担するのかというようなところも含めた整理が必要なので、全てが同じような形にはならないだろうと考えている。

・一方で、28 ページのマップを見ると、市民が感じているエリアに足りない機能がある、そういったものをどのように整備していくのか。

・今回の案では、松本駅の西側に自家用車専用の駐車場配置という単語だけが新しい項目で入ってるが、それ以外にもやらなければいけないことがあるのだろうと思う。

・この点をもう少し具体的にしていかないと、どのようなまちになっていくのかが見えてこないし、そこは全体的な議論を深めていく必要がある。

○ 司会

・ご指摘いただいた中に、いくつか重要なポイントが入ってる。

・現状の課題やゴールのイメージは共有できるが、ゴールにすぐにたどり着くわけではなく、そこにたどり着くためには途中のステップがある。現在、必要があって機能しているものを最終ゴールに向けて、それぞれの主体が納得できる形、これだったら大丈夫だということにならないと前には進めない。

・座組はあっても、具体的に前に進めようとするときには、きちんとそれぞれの主体に落とし込んで合意が取れないと前に進まないということ。

・その点が、本日の議論の中心だと思うが、どうやって進めていくのか、どうやってマネジメントしながらやっていくのか、しかも、一つの主体だけではできないとなったときのまとめ方をどうするのか。

・総論としては協力していかなければいけない。ただし、共創という言葉もあるが、それを具体的に価値創造できる形にしていくことは簡単ではない、というのが色々なところで出てきているのかなと、ここ松本では。

・どのような形で進めていくのかという点は、まさに議論が必要なところかと思う。

○ 委員

・再設計のイメージには、具体的に今後検討が必要な事項は書いてあるが、どのようにやるのかが、一番重要な点だという指摘はそのとおりだと思う。

・特に、道路空間の再配分などは私もできるとは思っているが、実際にはテクノロジー

一を使わないとできない。例えば、駐車場が満車で迷っている車も松本には多いと思うが、それに対応したテクノロジーに関する記述がどこにも入っていない。

・松本は元々城下町だが、一方で、新しいものを受け入れながら発展してきたまちなので、様々な可能性を受け入れられるまちだと思っている。

・現在の提言（案）は、既存のものとあるものを生かすことに特化してるので、新しいものを取り込んでいくという点を加えた方がいいと思う。

・15 ページに城下町の町割りがあるが、この資料がどのような意図でここに入ってるのかが説明しにくい。町割りがあるからウォークブルだという前提なのか。

・地元の人が主役でつくってきた城下町であり、町割りのエリアには今も活動している人がいるという資料であれば、まさに今後の飛躍が見えてくる資料だが、意図を聞きたい。

○ 事務局

・松本らしさ、城下町松本を十分に活かしたまちづくりというキーワードは、1 回目の会議から出ていた。

・そうしたことから、城下町の範囲とはどこなのかについては、改めて、委員の皆さん、市民の皆さんと共有する必要があると考えている。

・城下町は人が歩くことを前提につくられた都市であり、まちづくりの主役になっていただける方もそのエリアの中にいるという意味で資料を入れている。

・合わせてもう 1 点、城下町の町割りは、指針 4 にある「多様で高次な都市施設を包摂する市街地を創造する」とも関連している。

・城下町として守るべきまちなみや景観の範囲を明確にしつつ、多くの市民が望む施設を、どこにどのように配置していくのか、戦略的にどのようなエリアに配置していくことが適切かを考える意味でも、城下町の範囲を共有することが重要だとの考えの下に資料を入れている。

○ 司会

・松本らしさは、1 回目からキーワードとして出てきていて、委員の皆さんと何が松本らしさなのかについては、議論をしてきた。

・1 回目のときに出てきたキーワードは、グリーンインフラ。

・これは松本に限らず、様々な都市で試みが進んでいると思うが、議論していく中でグリーンインフラのグリーンの意味をもう少し広く捉えた上で、松本らしさを掘り下げてみると、水が重要なのではないかな。

・無理に新しいものを作るのではなく、松本が元々持っているものにスポットライトを当てて、そこが生きる形で再設計の方向を考えることが重要。

・新たにグリーンを作るだけではなく、既にまちが持っている水のポテンシャル、水との触れ合いを感じるもらうには、恐らく車で通過してしまうと、そこに水があるということが分からない。観光の方も含めて、日常の生活の中に当たり前にある環境が重要という話が出ていた。

・更には、何をやるのかいうときに、何をやらないのかという話も出てきていて、極端に言うと、松本以外の都市でもできることは優先順位が低く、松本でなければできないことに対して優先順位を上げるという議論があった。

・湧水やまちの真ん中を流れる女鳥羽川を今から作るというわけにはいかないので、既にあるものをどのように活かすのか、今回の資料修正で、女鳥羽川の記載が追加されているのは、そのような側面があると理解している。

○ 委員

・マネジメントとまちづくりの関係だが、違うというか、むしろそれをどのように結びつけるかが大事だと思っている。

・整備後に突然マネジメントが始まるのではなくて、整備段階からマネジメントの主体を構築しながら、スムーズにマネジメントのフェーズに移ることが重要。

・整備段階から関わる人をどう増やしていくのか、事業者だけではなく、まちなかの様々な活動をしている方がどのように関わるのか、そこがポイントになってくる。

・その活動をしている人たちがマネジメントの主体となり、伝えていく人になるので、整備とマネジメントは違うものではあるものの、いきなり計画を整理するだけではなく、トライ&エラーしながらやっていくようなこと、そこに関わることが大事。プロセスのところで、その点をもう少し強調してもいいと思う。

・それから、32 ページに社会実験の記載があるが、交通の部分だけ書いてあるので、もう少し他の部分にも記載があっていい。

・あともう一つは、第2回で議論した高次という言葉。この高次が何かということは説明がなくて、恐らく市民の方が見ても難しいと思われるところだと思う。

・これにはもとというか、皆さんご存知かもしれないが、大谷レポートというものがある。大谷幸夫先生が松本を50年前に調査されていて、それが今の指針となり、景観制度は展開されてきている。その大谷先生が使っていた言葉。

・都市には様々な機能があって、その一つ一つの機能や単位が集積してまちができていくが、高次とは別に高位という概念があって、例えば小さな商店がスーパーになるなど規模が拡大していく、主体や規模が大きくなっていくことが高位だが、高次はそうではなくて、様々な機能と単位を組み合わせ、新しい価値を見出しながら次元を高めていく。

・単に大きな商業施設などではなく、例えば、住まいと商業と働くことが一緒になる

と、今までにはない新しい都市の機能が生まれてくる、そういったものを生み出すのがまちだという議論なんですよね。

- ・これが松本にとっても大事だと思うのは、今まちにない機能も大事だが、改めて松本を見ると、中心部にはホテルがあったり、商業施設があったり、学校があったり、美術館もあったりするが、それらがうまく結びついてない。

- ・例えば、ホテルを利用する方と住んでいる方と何か関係があるのか、学ぶという機能と関係があるのか、今ある機能をいかにうまく組み合わせるのか、そこに足りないものを一つの要素として加えていくのか、高次というのはそういう概念だと思う。

- ・決して大規模に開発することが高次という意味ではなくて、様々なものを組み合わせて、できるだけ多くの主体を引き込むことが、実はすごく強いものになるし、様々な変化にも対応できるようになるので、このあたりは基本的な考え方、概念を整理したほうがいいと思う。

- ・高次とはどのような意味か、検討会議でもっと見ていったほうがいいと思う。あくまで一例として、大谷先生がそのように仰っているということを申し上げた。

- ・その関係で言うと、一番分かりにくいのが段階的な取組みスケジュールで、建物の高さ制限の在り方の検討とあるが、同時に、制限している高さだけが問題ではなくて、どのようなエリアにしていくのかという具体的な情報が入っていないところ。

- ・松本駅の東地区は、城下町の中心部とは違う。だから、指針や再設計のイメージのページではガイドラインとかビジョンを作っていきましょうという主旨を書いているが、段階的な取組みスケジュールでは消えてしまっている。

- ・高さ制限の緩和の検討のみをどうするのかというスケジュール感になっているが、やはりもう少し慎重にしたら良くて。

- ・高さも含めてエリアの具体的なデザインのビジョンやガイドラインを検討するというフェーズが先にないと駄目というか、まずいことになるというか、高さの話だけをしてしまうと、もうそれは、賛成か反対かというだけの話になってしまうので。

- ・そのエリアにどのような空間を生み出していくのかという検討フェーズがないので、そこは修正をした方がいいと思う。

○ 司会

- ・整備とマネジメントは、指針5の核心部分なので、その点を議論したいと思う。

- ・高次の概念をどのようにメンバーの中で共有するのかという問題提起ですよ。

- ・26 ページにある、あがたの森通りの南側、駅の東側で駅前記念公園があるエリア、このエリアは指針4に係るエリアだが、具体的にどのようなエリアでありたいのかという議論が十分ではなかったのではないかとご指摘ですよ。

- ・第3回で議論したのは、市民の皆さんからLINE やワークショップで、まちなかに欲

しい機能に係る意見があって、それを集約したものが6ページにある。

- ・多くいただいた声の中に、遊び場がない、子育て施設がないなど、ある種の居場所、溜まり場、そういったものが駅の近くに欲しいという声があって。

- ・では、どうしたらそれらを実現できるのかという議論が、指針4でフォーカスされている。

- ・エリアの周辺はどのようになっているのか、その場所ではどのような光景が広がっているのか、どのようなまちでここがありたい、どのようなまちに向けて再設計していくのかというあたりですよね。

- ・一つには高次と高位の概念の違い。規模を大きくしていくタイプは高位だが、高次については、規模は大きくならなくても、組み合わせの面白さや方法によって、今までにない新しい次元、より高い次元のまちを生み出すことができる。

- ・方向性としては、委員の皆さんも高次がかなり頭の中にあるのだろうなというふうには思う。指針5の議論に入る前に、指針4について問題提起をいただいた。

- ・どのようなまちにしたいのかについては、城下町の範囲は、今あるものを生かしつつも、駅の東側エリアは、城下町の範囲の外で、近代になって開発された場所のため、一斉に更新の時期を迎えていて、それをどのようにして、どの方向に向けて更新していくのか、この青写真をどう出していくのか。

- ・ここが、この検討会議の非常に重要な課題、宿題なのだろうなと思う。このエリアはこういう場所ではないのかなど、意見があれば出していただければと思う。

○ 委員

- ・このあたりは学校も多いし、情報発信がしやすい場所かなと思う。

- ・一つには、まちに人を誘導する、人が流れるような仕組みを作ってほしいと考えている。駅前にだけ誘導されても少し困るかなというのは、まちの思いとしてあって。

- ・これまでも何度か発言しているが、松本らしさ、歴史文化を考えた場合、お祭りの舞台はすごく重要なポイントになってくると思っている。

- ・昔はもっとたくさんあって、商都松本の繁栄の象徴であった。

- ・それがなくなってきていて、今残っているものは13台。必ずしも大きな施設を作って展示とまではいかななくても、見てもらえるスペースは考えられる。

- ・子育て中は、公園や子どもの遊び場が欲しいが、子どもが手を離れるとそれは必要なくなる。一方で、歴史文化を子どもたちに引き継いでいかなければならないのに、それを伝えるチャンスはなかなかない。

- ・舞台があるのに、触れない、知らないというのは非常にもったいないと思うので、歴史文化を発信するエリアとして考えても良いのではないかなと思う。

- ・その際に、エリア一帯が建物の更新時期を迎えている駅の東側エリアに、そのよう

なスペースが作れれば、文化継承もできるし、外国人や旅行者にも松本の財産が伝えられるのかなと思っている。少しでも形にできたらいいのかなと思う。

○ 司会

・まさにそういう具体的にやりたいことをこのエリアで実現したいと思ったときに、例えば、市が土地を買い上げて建物を作ることが現実的ではないとすると、そこは高次になるのかもしれないが、複数の目的を持った建物の中に欲しい機能が入るということであれば、一つの方法というか知恵で、この指針4の中の議論であったと思う。

○ 委員

・今回の再設計に関して、こういうことをしたいが、どうしても高さが足りないから制限を変えましょうということであれば納得しやすいが、最初に高さ制限を緩和しましょうから始めるのは、よくないのかなと思う。

○ 司会

・その点については、3回目の検討会議で皆さんと議論ができたと思っている。
・松本のまちは、これまでも抑制的に慎重に、景観に配慮しながら、まちづくりを進めてきた歴史があるので、その大原則は守る。
・そこはもう大原則なのだけれども、まちを更新していくに当たっては、様々な市民の声があり、こういうものがあったら良いという声が、多様なアクターから出てきている。
・それを実現するためには、エリア全部を、高さ制限を緩和する場所にするからどうぞということではなく、建物ごとピンポイントに、必要な機能を入れる場合に限って議論を行う例外規定とすることで、高さ規制の緩和の検討プロセスに載せることができるという議論が、3回目で、各委員の皆様からいただいた意見の総意だと思っている。
・そのため、当然、この指針4には、その考え方が前提として入っているというふうに理解している。

○ 委員

・外国ではよく言うんだよね。旧市街、新市街と言うように。
・この高さ制限については、駅前については高さ制限を緩和して、企業が来る場所はこのエリアだよと、その代わり、城下町のエリアは昔のものを残すよという考え方の中で、提言がまとめられていると理解している。

- ・そうであるならば、お城の周りにいなくてもいい企業は駅前に移ってもらう。今日、明日というわけにいかないが、何十年かけてそのようなまちにしていく、駅前の高さ制限を緩和して、徐々に企業に動いてもらう。
- ・松本駅から松本城の間は、商人や市民が主役となって、まちを作っていくということであるならば、指針4については理解ができるのではないかと感じた。
- ・それともう1つ。指針3の松本駅の問題。これはもう少し早く考えていかないと。今の乗換えが本当に便利なんですかということ。松本の人たちは便利だとは思っていない。JRで来てバスターミナルまで信号を見て道を渡って歩いている。本当は一緒になれば一番いい。
- ・松本駅を大きくするのならば、バスターミナルも上高地線も一体になると、これほど便利なものはない。
- ・もっと利便性が良くてお洒落なものにしていくことを考えていった方が、松本のイメージに合っているのでは。
- ・松本は昔のものを残している、だけど、そこだけじゃなくてよく考えているじゃないか、お洒落だねと。古いものを大事にする市民というのは、こんなにもお洒落なのかというイメージを作るべきだと思う。
- ・松本城周辺は、観光の側面というスローの時間を楽しめるまちだよと。スローの時間というのはこれからものすごく大事。ゆっくりと人生を生きていく。
- ・将来は無人バスが走る時代になるかもしれない。そのバスは時速60キロで走るわけではないのではないかと。そのスローな時間が松本城を中心にあればいい。
- ・一方で、松本駅周辺は、少し高さ制限を緩和して、ビジネスについてはこちらでしていただく。
- ・松本には音楽もあるし、美術館もあるが、時計博物館や中町のはかり資料館は活かされているとは言えない。松本城周辺の移動がスローになれば、より楽しめるまちになるし、年配の方もスローな時間を楽しんでまちなかを歩くようになる、そのようなイメージをこの会議の議論を通じて持っている。

○ 司会

- ・今のご指摘は、13ページの指針3に関連してくる。
- ・「安心・自由に移動できるモビリティネットワークの実現」の3つ目の項目に、交通の量と密度とスピードをデザインし直すことが書かれている。
- ・素早く便利に行きたいところと、ここはあえてスローにするところを分けることで、価値を出していくことができる。
- ・この点はよく考えられていると思う。この会議の1つのキーワードに、パブリック

ライフがあるが、多様なパブリックライフを生み出すために、どのようなデザインとしていくかは、モビリティのところでも重要なテーマになっている。

・駅の話も出てきたので、指針 5 の議論にいければと思う。30 ページに概念図と岡崎市の事例がある。

・32 ページは取組みスケジュールだが、冒頭に委員からも指摘があったとおり、これを実現させようとした場合に、重要な点の 1 つは、民間のスピードという視点。

・民間事業者が主体となる場合、その開発のスピードに他のアクターも当然ついていかなければいけないし、そこを何か阻害するようなことがあってはいけないということです。

・この開発スピードをどのように担保していくのかと言うと、冒頭、事務局からも説明があったが、資料の中に左を向いている矢印がある。

・プロジェクト実現のスピード感を矢印で示していると思うが、このスピード感を担保しながら、ここで議論した内容や精神みたいなものがきちんと個別プロジェクトに反映することができる座組なり、仕組みがどのようなものなのか、30 ページに一例が示されている。

・公民学がどのように連携して、都市整備とマネジメントをしていくのか。

・プロジェクトのタスクフォースとあるが、ここは整備の意味合いが強いと思うが、マネジメントは大きなところから小さなところまで関わってくる。

・整備に関しては一つひとつのプロジェクトごとに座組も変わってくるし、スピード感も違ってくる。

・この資料は、議論の土台になればと言うことでまとめていただいたものだが、ここは気をつけたい、このポイントが重要などを議論いただければと思う。

○ 委員

・これまで 3 回にわたって議論した中には、このスケジュールに乗らないものも多いのではないかと考えている。

・駅前話もそうであるし、道路事情も変えていかなければならないと思うが、これはもちろん一つの案ではあるが、まちづくりという観点からすると大きなことをしようと思うと、長期間になることもあるのではないか。

・プロジェクトの優先順位をどうつけていくのか。一方で、そこから弾かれたものは何十年も放置されるのではなくて進めていけるような仕組みが必要。

・具体的に何がということではないが、少しのそのような視点が必要だと思う。

○ 司会

・このスケジュールでは一番長期を 10 年としているが、1 回目でも出たが、今回は中

心市街地の中核エリアに議論を特化している。当然、中核エリアを考えるには中心市街地を考えないわけにはいかないし、更にその周りを考えなければいけないし、場合によっては、近隣の他の自治体との関係も考えないといけない。

- ・それら広範を見るとなると、20 年、25 年、四半世紀ぐらいのスパンで見てもぶれない方向性が必要である一方、数ヶ月単位、いや1ヶ月単位でかなりシビアに判断しなければならないものもあって、これをどのように両立し、一つ一つのプロジェクトとして具体的に落としていくのか。

- ・そのためのサポート、関わる体制を、他人事でなく自分たちのできることで関わりながらみんなで創っていくにはどうしたらよいのかは、議論が必要だと思っている。

○ 委員

- ・1月中旬に、LINE アンケートでも多くの希望が出されていた、屋内遊戯施設をまちなかに作るプロジェクトをやらせていただいた。

- ・この進め方はかなり公民学連携に近いもので、9月にプロジェクトを立ち上げてから実施まで半年で、プレーヤーは私たち市民と市と商工会議所と商店街の方たち。

- ・今回は単純な賑わいではなく、子どもたちの居場所づくりを、中心市街地でやってみたら、どのような変化が起きるのだろうかということであった。

- ・結果は、3日間合計で延べ人数1,288人の方が利用し、そのうち子どもが681人、私たちが用意した枠は、全てが満員という状態だった。

- ・パルコ6階で実施したが、年平均と比べても1.2倍程度の利用があり、1,200人にアンケートを実施し、施設や駐車場の問題に関するアンケート結果については、松本市に渡している。

- ・プロジェクトで感じたことは、市役所はこうだから、こういうことは駄目ということは一切なくして、民間と一緒に新規計画を議論する時間が私にとっては新鮮で。

- ・行政の皆さんと密で議論し、イベント当日を迎えたというのが初めての経験で、単に行政はブレーキ役ではなく一緒にアクセルを踏む時もあるって、ハンドリングをしながら一緒にやっていくことがとても大事だと。多くの人が連携することで付加価値が生まれ、新しいサービスが生まれていた。

- ・高次というものがこの中でも達成されないというふうに思っていて。一つの目標に向かって連携しながらやっていくことが大事だと思う。

○ 司会

- ・2回目の会議で、中心市街地の再設計と言ったときに、ハードをどのように整備するのかだけではなく、その後のメンテナンスや関わり続けることを考えると、ソフト面も合わせて考えないといけないという議論があった。

- ・例えば公園を作っても、手入れが行き届いてない場所があると。
- ・昔のような職住一体が減り、住居は別でまちなかに住む人が少ないために、町内会などが組織しにくくなっている。
- ・その中で、世代を超えてつながるコミュニティは、町内会も一つかもしれないが、それだけに頼っていては難しい時代が来ている中で、今紹介いただいた形も、まちづくりに関わり続けるためのソフト面を醸成していく仕掛けとして、重要なのかなという印象を受けた。

○ 委員

- ・32 ページの取組みスケジュールを見るとすごく前向きな姿勢が見える。民間の人たちに対する相談窓口がワンストップ化されていないと、本当に進めていくのかが分からない。そうした中で、1 年以内に仕組みを作ろうとしている。
- ・民間投資を呼び込むには、相談窓口がワンストップになっていることが重要で、守秘義務を含めてしっかりしていないと民間プロジェクトは進まない。
- ・公民学連携は重要ではあるものの、民間プロジェクトが絡むと難しい場合もある。信州地域デザインセンターにおいても公民学連携で進めているが、実際に連携するのは大変な面もある。
- ・公民連携プロジェクトを進める場合には、行政が事務局としてリードしていかないとうまくいかない。岡崎市の場合は市役所の人間が一生懸命やっている。やはり市役所の覚悟がすごく重要だと思う。
- ・そのような中では、提言に取組みスケジュールがきちんと示されているので、この通り頑張ってもらいたいし、1 年以内に、このメンバーで進捗を確認できたらいいと思う。
- ・それから、プロジェクトを進めていくには、プロの意見も必要。
- ・市民の方からは賛成、反対を含めて多様な意見が出されるので、専門的な視点からプロジェクトを見る視点は重要だと思う。
- ・指針 5 に基づき今後検討が必要な事項の 3 番目には、行政による公共投資とパブリックマインドを持つ民間企業の投資を掛け合わせた各種の公民連携プロジェクトを推進とある。これを来年度、具体的に制度設計していただければと思う。

○ 委員

- ・私も基本的な方向性は今のままで良いと思っているが、さきほど申し上げたガイドラインという形がいいかは別にして、開発に対する規制という手法で行政がまちづくりに関与するという形はあると思う。
- ・ただ、まちを共創していくに当たっては、必ずしも行政の役割は、規制をどうする

のかということだけではなくて、こういうまちを作っていきたいというコンセプトを伝える、多くの人と共有する、それが共創のプロセスではあるが、この会議で議論した結果、ポイントをより多くの人に分かりやすく伝えることが重要だと思う。

- ・例えば、横浜市では、エリアコンセプトブックを作っている。

- ・土地を活用する場合、このエリアはこのようにしたい、このような可能性がある場所だというような、いくつもの選択肢を民間企業に示してあげるといいう手法がある。

- ・これは規制というものではなくて、民間事業者は良いものを作りたいと思っていても、例えば、本社に帰ると経済的な合理性だけで判断されてしまい、企業の中で稟議を通すのが難しいということもある。

- ・そのときに、コンセプトブックみたいなものに、どのようなエリアにしたいのが明確になっていると、民間事業者も使えるということがある。

- ・一方的に押さえつけるものでなく、むしろ開発する側の立場に立って、開発する人たちも良いものを作りたいと思っているわけなので、それを引き上げてあげる形で、今回の検討会議の結果をお伝えできるといいと思う。

- ・規制の緩和を検討するだけではなくて、一緒にどのようなことを民間事業者とやっていくのかという、その仕組み、ツールを、この検討会議の次のプロセスとしてきちんと作っていかないと、色々出ているまちの将来像が実現できないということになってしまうと思う。

- ・恐らく、この検討会議だけでは検討しきれないことがたくさんあると思う。

- ・建物の高さにしても、本当にどれくらいの高さで、どの程度の容積が良いのか、その点については全く議論されていないので、そこはまさにプロの人に入ってもらいながら、もう少し具体的に行政としても指針を持っていたほうが良いと思う。

○ 委員

- ・32ページに取組みスケジュールがあるが、この検討会議でも何度か言っているが、民間の投資が起きるかどうかは、やはり投資コストが賄えるかどうかが重要で、それが停滞しているということは、必要な条件が足りないということだと思う。

- ・民間の投資が起きるような条件整備をしていかないと、投資をしてくださいということだけで投資が起きるものではない。

- ・そう考えたときに、民間のスケジュール感覚でいくと10年という期間は長過ぎる。

- ・10年経つと松本市の人口も1万人程度減少するという予測もある。10年経つと違うステージに移ってしまうのだと思うし、本当に10年後に達成できるかどうかは誰にも予測できない。

- ・何かをやり遂げようとした場合の期間はせいぜい3年。公民学連携の仕組みを3年以内に構築と書いてあるが、仕組みの構築で3年は長い。3年経つと中学生や高校生

は卒業してしまう。

- ・今動いてるプロジェクト、これから動かそうというプロジェクト、10年後に動かそうとするプロジェクト、それぞれを束ねて進める場合、どこが主体で進めていくのかという環境を整えることが大事。

- ・その座組も、同じ方向や目標に向かってみんなが行くとならないと、批判し合うみたいな座組になったのでは、全く前に進んでいかないと思う。責任ある議論が必要。

- ・どういう形のプロジェクトにするのか、マネジメントとするのか、その議論の場をどう作るのかはよく議論しないといけない。とはいえ、やはり早めにスタートさせないと駄目だとも感じている。

○ 司会

- ・条件整備をすれば民間投資が起きるのであれば、既に民間だけで進んでいるものがあるはずだが、必ずしもそうっていない現状がある。

- ・委員からは、せいぜい3年くらい、10年は明らかに長いというお話があった。

- ・民間は、スピードの速さ、リソース、テクノロジーを持っている。

- ・逆に行政はと言うと、言葉が適切か分からないが、どのようなことがあっても撤退しないというか、絶対に関わり続けるコミットメントの仕方がある。その良い部分をどのように組み合わせるかが重要だと思う。

- ・民間が仮に投資するにしても、安心してこのまちならば投資できる、信じられるものをきちんと示すことで、社内だけでなく社外の関係者にも説明ができる、納得できるものが揃わないと、前に進まないというご指摘であったと思う。

○ 委員

- ・事業をしていると、歩きながら背広を着るという言い方をする。靴下履いて、靴履いて、ズボンを履いてというようなスピードではなくて。

- ・どうしたら公民が一緒になって、スピードを合わせられるのか。

- ・現場はすぐに対応できる。今はインバウンドが良いので、観光を意識したまちづくりについてはイメージが湧きやすい。だから今は、観光面での投資はしやすい。

- ・これが10年経つと、もしかしたらインバウンドが減少して、今度はものづくりが良いとなるかもしれない。そのときには、着るものを変えていくイメージ。

- ・いわゆるグランドデザインが重要で、そこをみんなで分かち合いながら、失敗をしたらどうするかということは別にして、今回このメンバーの中で一つの結果が出ればありがたい。

- ・心配なのは、県が二拠点居住で塩尻市に力を入れるという報道があった。

- ・松本の立ち位置をどうしていくのか、時代の流れをキャッチして進めることが重要

で、100 点に向かいながら、70 点でも OK ということで進める必要があると思う。

○ 司会

・どうしても行政は、きちんと計画を立ててから前に進むことが求められるが、今日の議論は、実証実験ではないが、まず前に踏み出してみることが極めて重要だと。

・ただ、今日も議論になっている駅前は、それなりの事業規模と影響を市民の皆さんに与え得る大きなプロジェクト。ここを動かすに当たっては、議論しながら計画を細部に詰めていくというよりは、そろそろ前に進める段階だという意見が多かったのかなと思う。

・他の委員からコメントありますか。

○ 委員

・駅前については検討会議でもこれだけ議論してきたので、今後は、今回の意見を踏まえてイメージ図を描いてもらわないと、なかなか前には進まない。

・また 1 から組み立てるとなると時間ばかりかかってしまうので、修正はあるにしろイメージ図があると事業に携わっている立場からすると方向性を共有しやすい。

・先行して実施するプロジェクトには踏み込んだイメージ図があったほうが良い。

・イメージ図があった上で、それを更にイマジネーションでどう発展させていくのか、市民の皆さんへの伝え方も工夫しつつ、関係者みんなが前に進める青写真、イメージ図が必要だと思う。

・着手するプロジェクトを決めて、そのプロジェクトの青写真、イメージ図を早急に示し、手を挙げてくれる方といち早く座組を行うことの記載が必要だと思う。

○ 委員

・分かりやすい言葉で、みんなが納得する取組みになっていくことが重要だと思っている。

・この検討会議で私が知って驚いたのが、松本駅周辺の多くのビルが、耐用年数、再建年数が近づいていて、建て替えの時期を迎えていること。

・そのようなときに、商売をしている人、住んでいる人たちが、ではやろうと思うキャッチコピー、分かりやすい方向性がないと、特にお年寄りのそこに関わる人たちは腰を上げないのではないかなという気がする。

・横文字などではなく、分かりやすい言葉にしてもらえるとありがたい。

○ 司会

・30 ページに岡崎市の例があるが、先ほど岡崎市役所の覚悟がすごいという話があったが、真ん中の点線で囲まれているプロジェクト推進部署が鍵になると思う。

・ここが関係部署と調整し、プロジェクトのタスクフォースを組むような図になっているので、公民学連携においても公の部分は非常に重要だと思う。プロジェクトごとに人は変わるが、恐らく市役所の役割は変わらないと思う。

○ 委員

・規制緩和や制度改正、このあたりが再設計のきっかけになるのではないと思う。
・民間からすると、それに合わせて投資するということが出てくると思う。
・ただし、時間をかけていると進まないで、今回の提言でみんなが一緒に歩き出すことが重要。10年もすると時代は変わってしまうので、スピードはなければ駄目だということ。

○ 司会

・皆さんの議論を聞いていると、事業を進めるスピードが大事だと、それがないと民間は勝手にやりますよという話で、そうでないと一緒に歩いてくれる人もいないというお話だったと思う。
・全体的な感想になるかもしれないが、そんなに長くは時間が取れないのですが、それぞれ簡単にいただければと思う。

○ 委員

・せっかく提言を一緒に作り上げてきたので、これを形にしたい。
・早ければ1年、3年で変わったものが見えてくれば、我々がここに集まった甲斐があったと思う。ありがとうございます。

○ 委員

・三の丸エリアプラットフォームの中で、女鳥羽川を使って色々な活動をしていて、市民の皆さんの反響も大きくて好評を得ている。
・組合もかなり柔軟に動いてくれるようになって、今、女鳥羽川を松本の財産として、有効活用できる形になってきていると感じている。
・このエリアを町会の単位で区切るのではなく、湧水も絡めながら新しい動きを作って、ウォーターフロントと言うと正しいのかどうか分からないが、女鳥羽川を利用した様々なプロジェクトやまちづくりに利用できる仕組みを作っていければと思う。

○ 委員

・松本らしさを考える時に、このまちで何があったのか、どう変化を遂げてきて、どのような恩恵を受けて、私たちが育ってきたかを見直すことが重要だと思う。
・日常はすぐ過ぎ去るし、人によって時間の捉え方は違う。

- ・子育て中の人は明日のことを考えているし、我々は未来も考えなければならない。
- ・その時間の幅をしっかりと考えつつ、短期的、長期的なものに分けて考えなければならない。
- ・能動的に動ける市民として、私自身もプレーヤーとして頑張っていきたいと思う。

○ 委員

- ・検討会議を通した議論で、中身がある程度まとまってきたというのは素晴らしいことだと思っている。
- ・今はまだ抽象的な部分が多くあるが、これをどう具体化していくか。
- ・あとはやはり時間軸だと思う。日々、人口減少と少子高齢化が進んでいるし、様々なことが変化し続けている。
- ・やはり何もしないということは、停滞、衰退だと思うので、何かアクションがないと、活気のあるまちは作れないと思う。
- ・しっかりと具体化していくということを今後できればと思う。

○ 委員

- ・駅前については、市民の皆さんも含めて、非常に色々な期待値も含めて関心が高いということがよく分かった。
- ・当事者でもあるので、松本が本当にいいまちになるよう、貢献していきたいというふうに思う。
- ・駅前の東南側は、昭和 50 年の一番初めに開発された場所だが、ビルが空いていたり、更地になったり、今、マンション計画が止まったりと色々ある。
- ・ぜひ、手遅れにならないように、気がついたら駐車場だらけになっていたということがないように、未来に繋げていければと思っている。

○ 委員

- ・松本市と商工会議所が事務局という形が、長野県ではあまり例がない。
- ・このような会議は、民間の方には入っていただくことは多いが、市民の方も入って一緒に議論するというスタイルは、やはり松本だなと。公民は揃ったなと感じているし、学については、松本には信州大学の本部もある。
- ・この会議自体の座組があまりないので、これがまず素晴らしいと思っていて、私も楽しみに参加させていただいた。
- ・提言内容も、他の会議では、市民や民間の方の声が聞こえないなどと言われるケースもあるが、3 ページにあるとおり、今回、SNS も含めて様々な媒体を使って意見を聞いていただいた。
- ・そうした意見としては、松本駅周辺に対する意見が多かったし、市民活動をやりた

いという意見も多く聞かれた。

- ・古くに区画整理したエリアに、まずは、市民活動がある程度集約できる高次の都市施設の設置が、具体的に動いていけばいいと思う。

- ・県の立場としても、様々な手法の提供や民間の方に声がけすることもできるので、今後も一緒にやらせていただきたい。

○ 委員

- ・4回の議論を通して、松本という場所に対する、皆さんの愛情と的確な意見に、さすが松本だなと思っていた。

- ・民間投資を呼ぶ込むにはどうするのかという点については、規制というものが一つ足枷になっているのであれば議論が必要だと思うとともに、公共投資というお金だけの話ではなく、公共ができることは、こうした会議もそうだが、中心市街地をこうしていくんだ、そういったビジョンをしっかりと強く表現する、それ自体が大事なことだと思う。

- ・市民や市民団体などの活動も一つの投資だと思う。

- ・お互いにリスクも取りながら、それぞれの立場でまちに投資している。そういった雰囲気は松本には出てきているので、すごくいいと思う。

- ・もう一点、パブリックライフを考える上で大事なのは、一つ一つのパブリックライフの姿ではなくて、それをどうやって一つのストーリーにするか。一つ一つの場면을紡いでいった先に、どのような暮らしがあるのか、それを新しい暮らしをどのように打ち出せるのか、そこまでできるといいと思う。

- ・今は個別にやることが書かれているが、それが他でも出てくると計画も繋がってくると思うので、そのあたりは次の宿題かなという気はしている。

○ アドバイザー

- ・ここまでこういう形にできてほっとしている部分はあるものの、これを実行しないと意味がないので、本日の話に出ていたスピード感を持って進めていくことを、引き続き、都市デザイン専門の分野でやっていきたい。

- ・あと、スピード感を持ってアウトプットまでいくのは絶対に必要だが、同時に、成果が望ましい結果として得られたのかというチェックが、日本の都市計画ではされない場合が多い。

- ・スピード感を持って動く代わりにきちんと振り返りをして成果を次に生かしてく。

- ・スタートが60点だったものを70点、80点にしていく、それを仕組みに取り入れていくことが大事だと本日の議論を聞いていて思ったので、私も自分の分野で役に立てるところを見つけながら、松本のまちのために動いていけたらと思う。

○ 司会

- ・本当に貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- ・今、皆さんの議論を伺っていて、これはやるということなのだなと。せっかくこれだけの人がこの検討会議に集まって、一定の方向性を示せそうなところまではきたが、方向性を示しっぱなしにならないように、一歩踏み出すことが重要だと。
- ・松本市基本構想 2030 の行動目標の最後 5 個目のステップは、挑むなんですね。
- ・ここは失敗を恐れず、もちろん失敗しないように綿密に進めるわけなのですが、先程言われた歩きながら背広を着るではないが、やはり挑んでみると。
- ・松本の基本構想 2030 の良いところは、挑むの次のサイクルに認めるがあるところ。挑んでナイストライだったというところから、もう 1 回修正をかけて挑み続けるということが、この 10 年の基本構想にはある。
- ・中心市街地の再設計も基本構想の精神で、挑んで、みんなでやっていくというようなことができればいい。
- ・検討会議で出した方向性、バトンを市長にお渡しし、市役所の皆さんに受け取っていただくわけだが、バトンを渡した後も、もちろん我々も見ていくし、チェックはするわけだが、そのような想いでバトンを渡していければなというふうに思っている。
- ・それでは最後に、座長からお言葉をいただければと思う。

○ 座長

- ・私は商売をしていて、基本の徹底と変化への対応を基本方針にやってきた。
- ・基本は徹底してレベルを上げなければいけない。合わせて、大変な勢いで変化している時代に対応すること。
- ・ハード的には 50 年が一つの節目という感覚を持ちながらも、一番大事なのはやはり人ではないかと。
- ・そこに住んでいる人たちが、幸せでいられるか、希望を持てるかが一番大事。
- ・また、松本に各地から多くの人に集まっていただけること。
- ・今人口が減ろうとしている。増えている時とは違う戦略を立てなければならない。
- ・目標はみんなが持っている。それを達成するためにどうするのが一番重要。
- ・せっかくこれだけの方が集って、松本を良くしようということで動いているので、ここで終わりではなく、何らかの形でお互いに確認し合うという仕組みを残していかなければいけない。
- ・国も地域創生に取り組んでいる。国の施策の活用も想定しながら、今後の対応を考えておく必要がある。
- ・3 月に市長に提言をするが、提言書は紙になるので口頭で補足を申し上げた。
- ・本当に 4 回の会議の間、様々な意見をいただき、本当にありがとうございました。

○ 司会

- ・事務局から連絡事項をお願いします。

○ 事務局

- ・資料説明でも申し上げたが、3月24日に市長提言を予定している。
- ・当日は、検討会議を代表して座長と座長代理に出席いただく。
- ・本日も多くの意見をいただいたので、最終的な提言書内容については、委員の皆さんにメール等で調整させていただきたい。よろしくお願いいたします。

○ 司会

- ・市長に提言するまでに1ヶ月ほどある。
- ・本日の資料はあくまでも案なので、本日の議論を盛り込んだものを、メール等で確認をいただいた上で、最終的な提言として取りまとめて市長にお渡ししたいと思う。
- ・委員の皆さま、本当にありがとうございました。

○ 事務局

- ・昨年7月に設置した会議だが、計4回、皆様の協力により、中核エリアの将来の見取り図をまとめていただけた。
- ・これまでの議論に本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。
- ・本日も再設計・再活性への覚悟、挑む姿勢が大事だという話があったが、松本市でも4月から中心市街地活性本部をつくり、組織も整えてやっていく。
- ・この検討会議でも、交通、建設、商工、観光が一緒になって事務局を担ってきたが、今後も一丸となって提言を実現していく覚悟で臨みたい。
- ・以上をもって、第4回中心市街地再設計検討会議を終了させていただく。本日まで、8ヶ月間ありがとうございました。